

4/28サッカーJ2 ファジアーノ岡山戦 Jリーグ初のサッカー手話実況生配信【実施報告】

報道関係各位

岡山放送株式会社（本社：岡山市北区下石井二丁目10-12、以下OHK）は4月28日にシティライトスタジアムで開催された「明治安田J2リーグ 第12節 ファジアーノ岡山VS清水エスパルス戦」を地上波で生中継するとともに、YouTubeのOHK公式チャンネルにて「手話実況」を同時生配信しました。Jリーグ中継での手話実況は国内初の取組です。

手話実況とは、OHKが30年継続している手話放送とスポーツ実況中継のノウハウを生かし、誰もが当たり前前にスポーツ観戦を楽しめる環境を創出しようと、一般財団法人トヨタ・モビリティ基金（東京都文京区、理事長：豊田章男、以下基金）の助成を受け、2022年秋に日本で初めて実施した実況スタイルで、音声実況を健聴者が手話通訳し、それを見たらう者が自身の言葉として手話で実況する画期的な取組です。

OHKはこれまでモータースポーツとマラソン競技で手話実況を実施してきましたが、今回初となるサッカーではファジアーノ岡山と協力し、地上波でサッカー中継を放送すると同時に、インターネットで手話実況を配信しました。



実際の配信画面



配信スタジオの様子

当日スタジアムでは、聴覚障がいがある大野志織さん親子が、スマートフォンで手話実況を見ながら観戦しました。普段からサッカー観戦を楽しんでいる大野さん親子は、「これまでホイッスルのタイミングや意味が分からなかったり、観客が静かになったり盛り上がったりのかが分からなかったが、今日は手話による実況や解説のおかげで、本当に聞こえているかのような感覚だった」と感想を寄せました。



スマートフォンで手話実況を見ながら観戦する大野さん親子（大野さん提供）

当日の手話実況は、OHKが手話実況者の育成と技術向上を目指し、2023年6月に基金の助成を受け立ち上げた「OHK手話実況アカデミー」に所属する早瀬憲太郎さんほか3人のろう実況者と、3人のコネクター（手話通訳者）、そしてOHKの3者がタッグを組み行いました。また、今回はろう実況だけでなく、デフサッカー日本代表の江島由高選手によるろう解説も加わり、ろう者自身による「手話実況解説」にグレードアップし、聴覚障がい者にとっての言語である手話で戦況を伝えました。配信の様子はこちらのダイジェスト版からご覧いただけます（https://youtu.be/ln-8sk_mLA0）。

<手話実況配信概要>

- タイトル：明治安田J2リーグ ファジアーノ岡山×清水エスパルス
- 配信日時：2024年4月28日(日)13:00～15:00 OHK公式チャンネル（YouTube）※配信は終了
- 手話実況スタッフ

ろう実況：早瀬憲太郎（自転車競技デフアスリート）、佐藤正士（岡山県在住の手話漫才師）、藤田菜々子（女優）、西脇将伍（手話アーティスト） ※いずれもOHK手話実況アカデミー生でろう者
ろう解説：江島由高（デフサッカー男子日本代表）



ダイジェスト版

また、手話への理解を図ろうと試合当日の朝、試合会場のシティライトスタジアムでろう実況者らが運営ボランティアを対象に手話講座を開きました。この講座はファジアーノ岡山とOHKが行ったもので、ろう実況者らが講師を務め、ボランティアスタッフなど関係者に「なにかお困りですか」などの簡単な手話表現を教えました。



手話を教えるろう実況者の佐藤正士さん（写真左）



手話を習う運営ボランティアのみなさん

AI技術の革新により、CGによる手話表現も可能になり、場所や時間を選ばず手話で情報発信できる環境が実現しつつありますが、OHKはこれからも聴覚障がい者が持つ豊かな表現力、状況に応じた柔軟性を最大限に生かし、スポーツの臨場感や感動を伝えていきます。



ろう実況者の藤田菜々子さん（写真左）と
ろう解説の江島選手

OHKは今後も放送局として誰もが情報にアクセスできる環境づくりを推進するとともに、2025年に日本で初めて開催されるろう者のオリンピック「デフリンピック」に向け、障がいの有無にかかわらず誰もがスポーツ観戦を楽しめる機会創出を目指し、「情報から誰一人取り残されない社会」の実現へ努めてまいります。